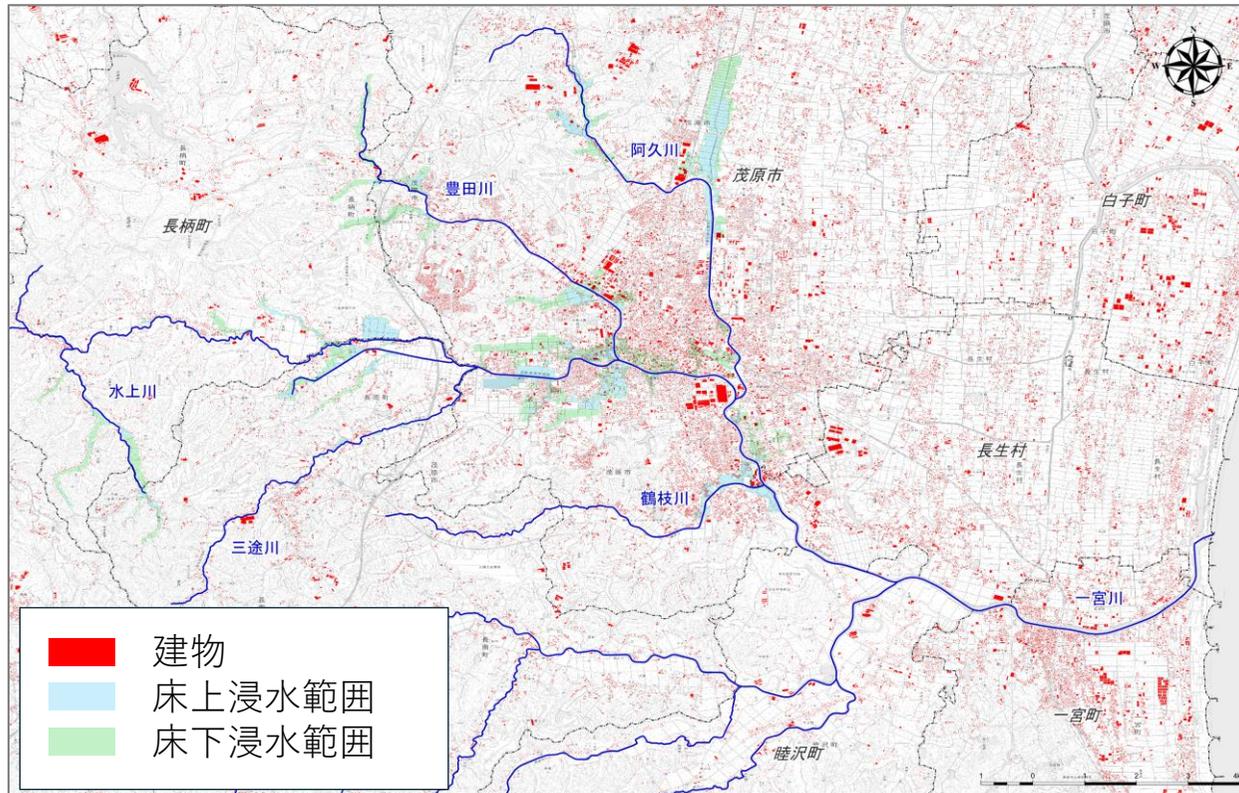


R11時点の残余リスク [建物ポリゴンによる表現]

【R11時点で残る主な浸水エリアの特徴】

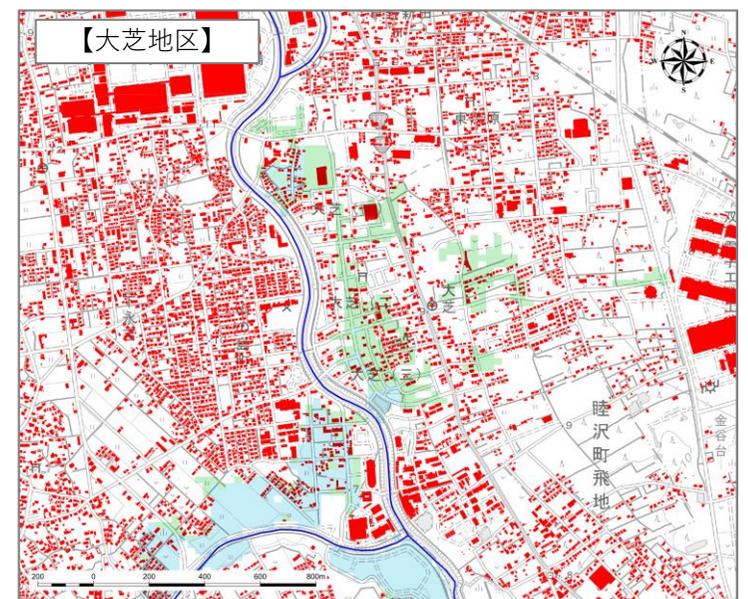
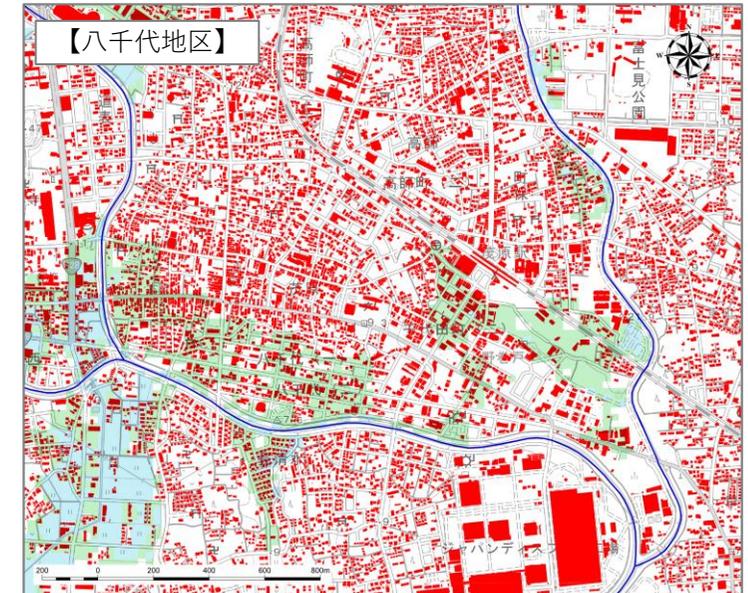
- ・ 基盤地図情報の建物ポリゴンと残余する浸水範囲を重ね合わせて、建物被害のリスクを見える化



【条件】

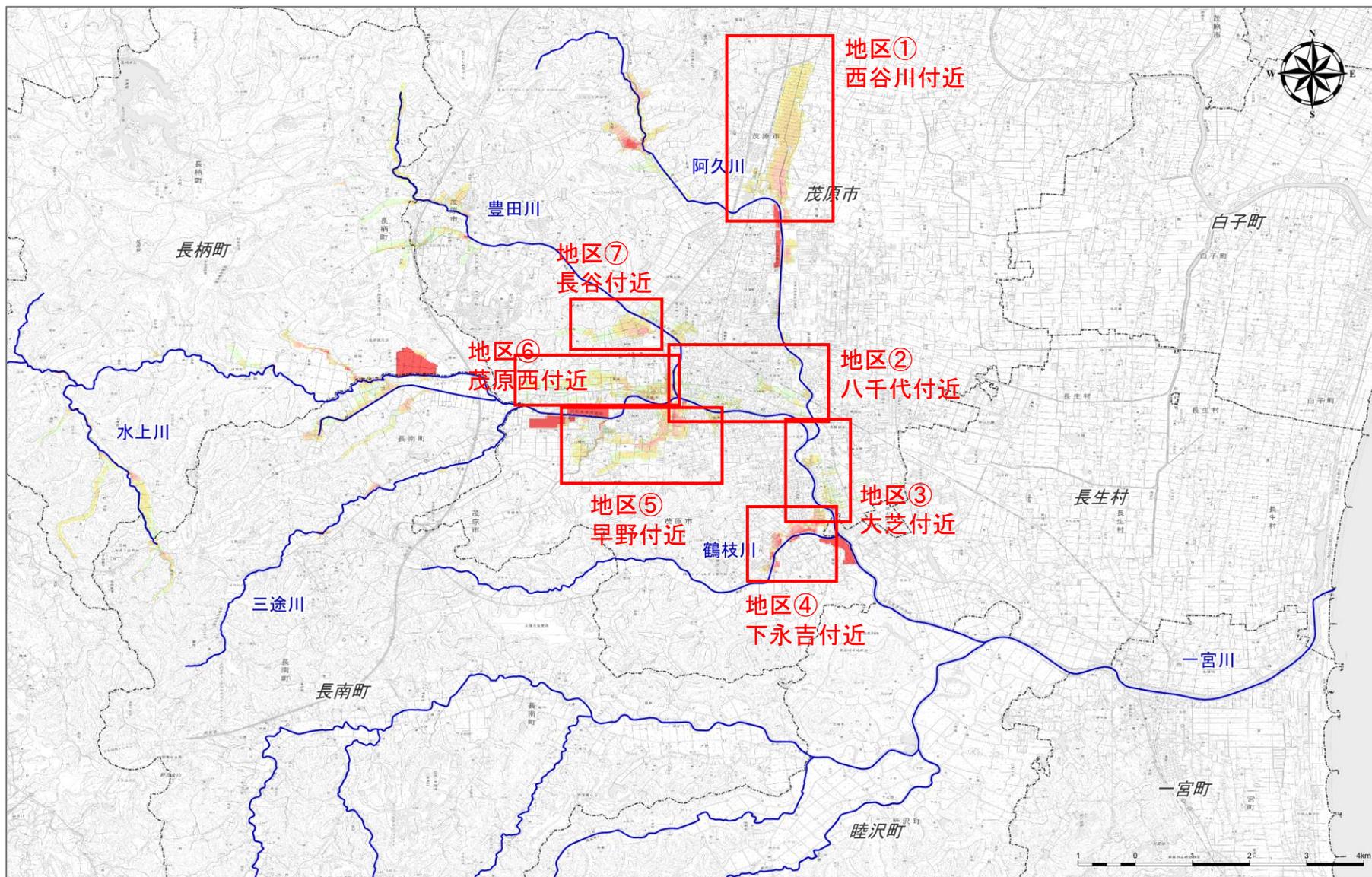
- ・ 基盤地図情報（建物外周線）の堅ろう建物と普通建物
- ・ 面積25m²以上

※床上浸水は0.5m以上とした。

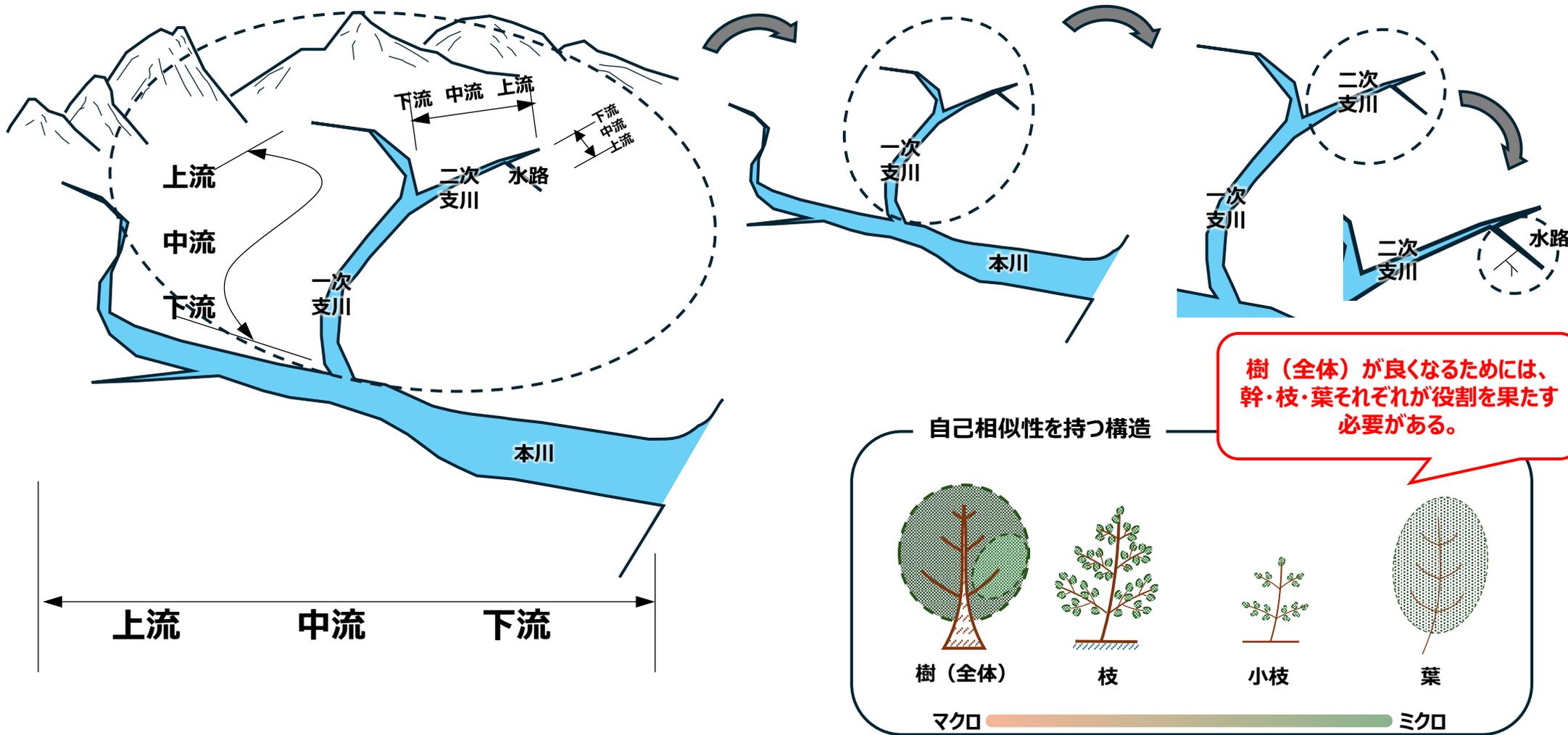


R11時点の残余リスク [地区（小流域）ごとの特徴]

茂原市域について、まとまった浸水範囲を7つの地区に分類。



流域全体の残余リスク把握に加え、細分した小流域ごとの浸水リスクも把握することが重要。これは、河川流域が、自己相似性のある小流域の集まりであり、流域全体（マクロ）に見た対策だけは浸水リスクを除去しきれず、小流域（ミクロ）に見た対策も必要であるため。



次から、シミュレーションで浸水が残った地区ごとの特徴確認例を示す。
小流域や地区といった単位でもどのような対策があるかを検討していくことが必要となる。